

誰もが使いやすい。

空間デザインは個人的な居室のインテリアから建築、都市、地域まで様々なスケール(尺度：広がり)があります。特に大きな空間を考える場合には個人的な思いだけでデザインを進めることができません。たくさんの人が使う空間をデザインする時には様々な人が使いやすい空間を考えます。高齢者や子供、障害のある方も利用しやすいユニバーサルデザインの考え方は空間デザインの基本的な視点と言えます。



原田研究室



空間デザイン（インテリア）課題
(レオパレス 21 モデルルーム)



グループワークで作業を進めます

ものづくりを通して空間を考える

空間デザインの授業では現実の空間(フィールド)を意識しながらデザインを進めるため、地域の方々に意見をいただいたり、現地調査を行いながらアイデアを練っていきます。時には地域の特産品を活かした商品(プロダクト)のデザインを提案し、実際に試験販売することもあります。

伝統的なものづくりに新しい3Dプリンターやレーザー加工機を活用し、新しい技術で現代の生活に合わせたプロダクトを考えることで地域産業や伝統工芸の活性化を進めることもできます。



地域活性化のためのデザイン 八代市宮地紙を活かしたまちづくり



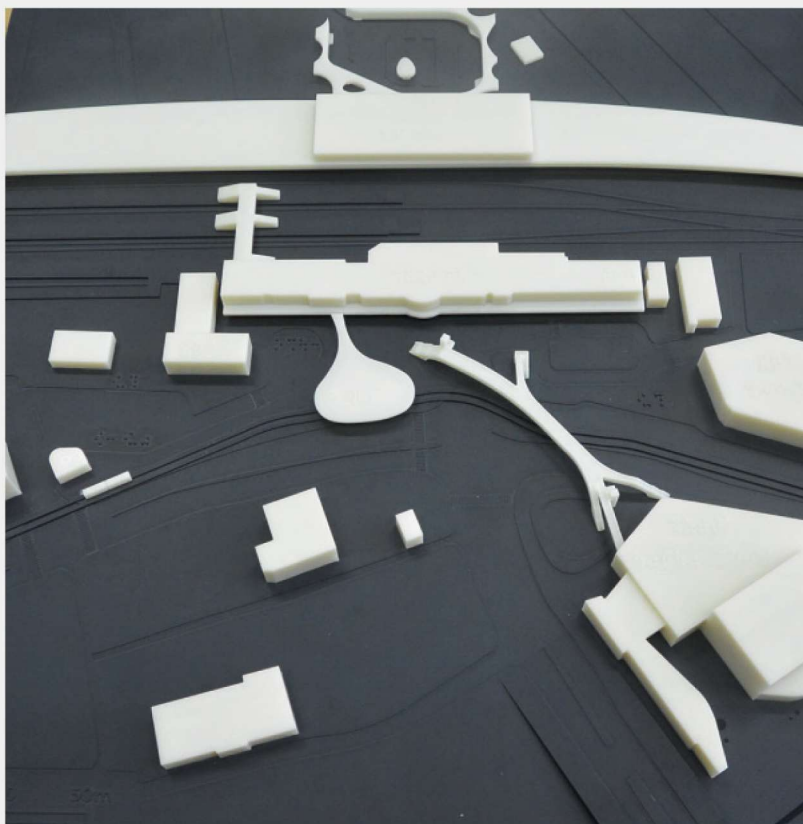
益城町の震災復興プロジェクト



崇城大学ものづくり創造センター



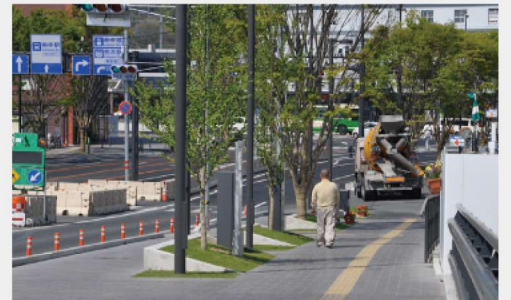
インテリアリニューアルデザイン



JR熊本駅周辺 触知図 (視覚障害者向け立体サイン)



熊本駅周辺 サインデザイン



熊本駅周辺 都市空間デザイン (ランドスケープ)

魅力的な都市景観をつくるために

都市は多くの人々が利用する公共空間（パブリックスペース）です。安全であることはもちろん、魅力的な景観を作ること大きな目標です。暑さの厳しい熊本では休憩場所に日差しを遮る木陰が必要であるなど、その場所の特性に合わせた空間デザインが求められます。地域の素材を使うことで親しみやすい空間をつくり、周りの建築物の調和を図るために、色彩を調整するなど、単体のデザインだけでなく、広い視野でデザインを考える必要があります。

また、ベンチや手すりなど人が触れる部分では手触りや温かみ、冷たさなど触覚にも注意を払ってデザインします。



山鹿市内サインデザイン

原田和典

Kazunori Harada

デザイン学科 教授

略歴

筑波大学大学院芸術研究科修了
株式会社 GK 設計地域計画部

所属団体

日本デザイン学会 正会員
日本建築学会 正会員

専門分野 空間デザイン



Product

Design

空間はどうやってデザインするのか？

空間とは「何もない空いた場所」のことですが、何もない場所をどうやってデザインするのかと考えると難しい気がします。建築では壁や天井で囲まれた空間をつくります。壁がなくても木々に囲まれた空き地は空間と感ずます。有名なタレントがいればその周りにオーラに包まれた空間ができるかもしれません。空間はそこにあるモノとモノ、あるいはモノと人との関係によってつくられるのです。

空間デザインではより良い関係性をつくることバランス感覚が重要です。崇城大学デザイン学科ではプロダクトデザインコースでモノのデザイン手法を学びながら、モノの関係性によって形成される空間デザインを学びます。

飾ることがデザインではありません。
居心地のよい空間づくりには必要な要素を
整える、マイナスのデザインも重要です。

原田和典（教授、環境デザイナー）

あまり意識することはないかもしれませんが、普段生活している環境の中にも多くのデザインが隠れています。オシャレな場所、心地よい空間はデザインの力でできています。飾り立てるデザインだけでなく、さりげなく居心地の良さをつくるようなデザイン。多くの人に安心感を与えられるような空間デザインが目標です。